

別紙様式

組織評価の改善状況報告書

平成 26 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

電子工学研究所所長 三村秀典

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成25年度の改善状況を報告します。

要改善事項
本研究所の特徴・強みをアピールしながら、全国共同利用・共同研究拠点に申請して頂きたい。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
2013年1月、イメージングデバイスに関する新たな学問分野の創出を図るため、全国共同利用・共同研究拠点に申請した。
改善状況
2013年4月、全国共同利用・共同研究拠点（拠点名：イメージングデバイス研究拠点）として認定された。
達成年度（予定を含む）
平成25年度

要改善事項
附置研究所の運営には競争的資金の獲得が最も重要であり、科研費への申請をはじめ、各種プログラムへ積極的に応募して頂きたい。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
静岡大学、浜松ホトニクス、浜松医科大学、光産業創成大学院大学の連携で国際科学イノベーション拠点整備計画事業に申請した。
改善状況

「はままつ光研究拠点」として採択された。静岡大学は浜松ホトニクス、浜松医科大学、光産業創成大学院大学と光技術の産学連携をさらに強力で推進することにした。さらに同じ協力関係をもとに革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）に応募し、COI-S「時空を超えて光を自由に操り豊かな持続的社會を実現する光創起イノベーション研究拠点」として採択された。

達成年度（予定を含む）

平成25年度

要改善事項

工学部・研究所との連携を一層密にして、互いの良い所を認め合い、共存共栄する方向で一層努力されることを期待する。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

電子工学研究所と工学部の教員で、新学科「電子物質科学科」と新専攻「電子物質科学専攻」を立ち上げる。また、電子工学研究所を改組し、工学部、理学部の教員と一緒に新研究所を設立する。

改善状況

2013年4月から電子工学研究所と工学研究科の教員で、新学科「電子物質科学科」と新専攻「電子物質科学専攻」を立ち上げた。また、「電子工学研究所」の組織を変更し、ナノビジョン研究部門、極限デバイス研究部門、ナノマテリアル研究部門、生体計測研究部門の4部門体制とした。新組織には電子工学研究所、工学研究科、情報学研究科、理学研究科の教員がメンバーとなった。

達成年度（予定を含む）

平成25年度